令和６年度第１回千葉県がん教育推進協議会議事録

１　日　　時　令和７年２月２６日（水）午後３時００分から午後４時００分まで

２　場　　所　ＷＥＢ会議（Ｚｏｏｍ）

３　出席委員
金田会長、加藤委員、五十嵐委員、野田委員、細井委員、飯田委員、近藤委員、田端委員、穴澤委員

４　議題
（１）審議事項
①会長・副会長の選出について
（２）報告事項
① 第４期千葉県がん対策推進計画について
② がん教育に係る外部講師派遣について
③ 令和６年度「がん教育授業の実践研修会」について

５　議事内容

（１）　審議事項
①　会長・副会長の選出について

○加藤委員
金田委員を推薦する。

○事務局
金田委員の推薦をいただいた。承認の方は挙手をお願いする。

（異議なし）

○事務局
全員一致で賛成のため金田委員に会長をお願いする。

○金田委員
お引き受けする。

○事務局
これ以降の議事進行は金田会長にお願いする。

○金田委員
副会長の選出について、加藤委員にお願いしたいが、よろしいか。

（異議なし）

○加藤委員
よろしくお願いしたい。

（２） 報告事項
① 第４期千葉県がん対策推進計画について
【事務局より資料１に基づき説明】

○金田会長
ただいまの報告に対して、何か御質問はあるか。

（発言なし）

② がん教育に係る外部講師派遣について
【事務局より資料２に基づき説明】

○金田会長
ただいまの報告に対して、何か御質問はあるか。

○加藤委員
外部講師派遣について、医師や看護師が派遣されているが、どこの機関から派遣されているのか。

○事務局
学校に「外部講師派遣が可能な機関一覧」から希望機関を選んでもらい、希望された職種の方を派遣してもらう。

○加藤委員
申込み希望のあった教育機関の方が、希望する医療機関を選ぶというような形になっているのか。

○事務局
そのとおりである。

○加藤委員
県から積極的に教育機関に働きかけはあるのか。

○事務局
　毎年、保健体育課にて行っているがん教育授業の実践研修に合わせて「外部講師派遣が可能な機関一覧」の活用について周知している。今年度は９月に文部科学省主催のオンデマンド研修に合わせて「外部講師派遣が可能な機関一覧」を送付している。今年度は４回ほど、県立学校、市町村教育委員会に周知している。

○五十嵐委員
　千葉県内の小学校、中学校、高等学校は何校あるのか。どのくらいの学校が外部講師派遣を利用しているのか知りたい。

○加藤委員
　令和６年８月時点で学校数は小学校は７５６、中学校は３８８、高等学校は１８１となっている。

○五十嵐委員
　がん教育は義務化されているが、テーマの中の「がん体験」について、医師、看護師、保健師が自分の体験として話しているのか。それともがん体験を代理で話しているのか。

○事務局
　がん教育は必修化になっているが、学校の状況に合わせて、外部講師派遣を活用してほしいと考えている。
　アンケートからの把握になるが、「がん体験」については講師の方が実際に患者さんと関わったときの話をしていると伺っている。

○五十嵐委員
　がん経験者が講師になったというのは一つも無い。活用がされていないのか。

○事務局
　学校によっては単年度ではなく、複数年度でがん教育を進めていこうと考えているところもある。１年目は医療職の方にお話をしていただき、がんの知識について学ぶ、２年目にがん経験者に接し方等を学びたいと相談を受けているケースもある。学校のがん教育の進め方にあわせて外部講師の派遣ができたらと考えている。

○五十嵐委員
　学校側に任せるだけでなく、行政でも引っ張っていくということは考えていないのか。

○事務局
　文部科学省主催の「がん教育シンポジウム」にて、学校側がどうしていきたい

かということを主に考えていく必要があると話に出ていた。事務局としてはこういう外部講師がいるということを周知できたらと考えている。

○野田委員

がん経験者の活用が進まないというのが変わっていないと言うことを感じた。他県での取組を聞いており、がん経験者がこういう話が出来ますよというモデル事業みたいなものを出来たらと思っている。

千葉県ではがん教育を取り扱う教科をわかっている範囲で教えてほしい。

○事務局

保健体育で扱っている学校が多いと把握している。また、健康診断の合間に行いたいという希望がある。

○金田会長

がん経験者の話を聞くときに、どのような方が来て、どのような話をするのか掴みづらいところがある。きっかけとして、医療者と一緒にがん経験者も行き、それが何回か繰り返されればがん経験者から聞ける話がわかってくる。そうしていくと学校側もこういう話をしてくれるがん経験者を派遣してほしい、などと進むのではないか。五十嵐委員、野田委員いかがか。

○野田委員

他県でも医療者とペアで伺う方法をとっているところはある。がん経験者のみで行く場合もあり、色々なやり方がある。

まずは医療者と一緒にがん経験者が伺うのが良い方法と思う。

がん経験者を講師に呼んでほしいというのは、テーマが「がん予防」、「がん検診」に偏っており、知識として伝えていかないといけないが、がん患者が増え、誰もがかかる時代になってきていて、テーマの偏りがあるとがん患者が生きにくいという社会になるので、がん患者の声を聞くような取り組みを出せたらと思っている。

○事務局

提案をしていただいたことについて、学校の希望や、費用、時間の問題もあるが、学校の協力を得られ、希望があるときに「医療者と一緒にがん経験者の講演もどうですか。」と声かけはできるかと思うが、まずは、学校へ「がん経験者の派遣もできます。」と声かけをしていくことも有効かと思うので周知をできたらと考えている。

○野田委員

千葉県内のがん患者団体やがん患者を派遣するというのが前提だと皆さんは認識していると思うが、例えば、ＡＹＡ世代について話をできる人が県外にもいる。県外から講師としてきてもらい、授業を行ってもらうのも提案したい。

○細井委員
　学校によって違いはあると思うが、県外から講師を呼ぶとき等、交通費や宿泊費等どの程度かかっているのか。

○事務局
　具体的な金額は把握していないが、学校によって交通費や謝金が対応可能な場合と対応ができないというところはある。

○飯田委員
　がん教育実施結果アンケートについて、前向きな回答を掲載しているが、身内にがん患者がいる児童生徒や、そのような経験をして親御さんを亡くしているという児童生徒の声はなかったか。学校側としては、そのようなところをすごく気にしているので、そのようなことがあれば教えてほしい。

○事務局
　令和４年度、令和５年度に回答いただいたアンケートにはそういった内容のものはなかった。今年度、回答いただいたアンケートには、配慮が必要な生徒がいたので、外部講師の方と打ち合わせができて良かったという記載はあった。

○五十嵐委員
　令和４年度の派遣回数の２６回は依頼が来て、派遣をした回数なのか。

○事務局
　依頼があり派遣をした回数になる。

○野田委員
　飯田委員から児童への配慮の話が出たが、全国がん患者団体連合会などが行っているがん教育の講師を育てるプログラムでも配慮事項というのはすごく厳しく言われている。小学校、中学校、高等学校で習う漢字も使う言葉も違うということへの配慮や、飯田委員が言っていた身内にがん患者がいる児童や亡くされたという経験を持っている児童もいるので、しっかりと事前に学校の先生方との打ち合わせをしたり相談をしながら行っていくということを徹底的に言われている。十分に配慮が必要という風に認識している。

○金田会長
　配慮事項について話が出ているが、事務局の方で何か知っていることがあれば教えてほしい。

○事務局
　今年度、中学校、高等学校にてがん教育授業の実践研修を行っている。他県にてがん教育を行うときに配慮事項として「参加しなくてもいいよ。途中で抜けて

もいいよ。気分が戻ってくるようであれば戻ってきていいよ」という３つのキーワードを大切にされており、同様の説明を中学校、高等学校へ行った。学校も家族がお亡くなりになったことで、参加ができなかった生徒にどのようにがん教育を実践するか、授業に参加した生徒にもどういう声かけをしようというのが先生方も事前に把握、対応した。把握や配慮というのは、生徒たちを守る、育てるためにも非常に有効かと感じている。

③ 令和６年度「がん教育授業の実践研修会」について
【事務局より説明】

○事務局

実践研修は令和元年から中学校、高等学校のがん教育の完全実施に向けて、３年間の計画でスタートした。新型コロナウイルスの影響により、途中書面開催となり、当初、３年間の計画だったものが、今年度までの６年間で開催に変更して実施し、実践研修は今年度で終了となる。

今年度は中学校、高等学校で実施した。２校の実践研修については参集とオンデマンドのハイブリッド形式で実施した。

中学校では「がんはなってしまうと、亡くなってしまう」という不安を抱く生徒もいることから未然防止、治る病気であることを話してもらった。その上で、生徒たちからは自分たちに今できることを改めて考え、これからの生き方について考える機会となった。授業者からは、「外部講師を活用したことで、生徒自身の生活習慣を見直す機会となった」、「専門家からお話をいただけたことで、意欲的に授業に参加することができ正しい理解に繋がった」とのお話がありました。課題としては、「生徒への配慮。深い学びにつなげるための授業の工夫や講師の先生からお話をいただく内容の精選が必要」との意見をもらった。

高等学校では「もし、みんなの身近な方ががんになってしまったとき、みんならどう行動するか」とがん患者への関わり方について、生徒自身に考えさせる工夫も見られた。授業者からは、成果として、「実際に医師の方のお話を聞くことで、がんについての理解を深めることができた」、「大変わかりやすくやはり説得力があった」、「興味関心が高まった」などの好意的な意見があった。生徒の中には「がんという病気はなったらほとんどの人が死んでしまう」と理解不足の生徒もいるということもわかり、今回の授業をとおし、検診を受けることにより、早期発見、早期治療をすることで、治る可能性が高まるということ、専門家からの説明でより深い知識を得ることができた、がん検診やワクチン接種の重要性など、予防するための社会的な取組の視点も持つことができたというような意見もあった。

○五十嵐委員

研修ということだが、他の学校の先生方が後ろの方で授業を見ていたのか。

○事務局
　県内の先生方に声かけし、両方とも１０人弱、参加いただいた。

○五十嵐委員
　オンラインなどを利用し、自宅や学校からでも視聴できる工夫があるともっと多くの人が見れたのではと思う。
　研修は今回で終わりなのか。

○事務局
　この研修は今回で修了となる。
　五十嵐委員からオンラインなどでの視聴について話がでたが、研修については、実施している映像を約１５分程度にまとめ、視聴してもらう形で県内の小学校、中学校、高等学校の先生方に放映している。

○五十嵐委員
　先生以外は見ることができないのか。

○事務局
　研修について、個人情報等に留意した上で進めるというところがあり、御理解いただきたい。

○五十嵐委員
　理解したが、その点を工夫していただけると、実際の授業風景がわかると思う。

○事務局
　文部科学省主催のがん教育の研修会があり、実践授業の内容もあり、勉強になる。次年度以降も多くの方に視聴してもらい、全国の実践授業に触れていただきたいと思う。

○五十嵐委員
　文部科学省主催のがん教育シンポジウムに参加したが、このシンポジウムのお知らせをするだけでなく、県がリーダーシップをとることが必要ではと感じた。

○金田会長
　今後の方針や未来図を描いているのはどういったところになるのか。

○事務局
　今後について、事務局にてどう進めていくのがいいのかということを考えて進めていけたらと考えている。

○金田会長

令和４年度、令和５年度に比べ、令和６年度の派遣回数が増加している。感染症が落ち着いたからなのか、周知活動などで広まり数が増えたのか教えていただきたい。

○事務局

感染症が落ち着き、外部の方を呼ぶのにハードルが低くなったのかと思う。また、外部講師を活用しようと考えるところが増え申込みの声があるので、外部講師派遣について周知が広まっていると考えている。

○野田委員

他県にてがん教育のガイドラインを作成している。ガイドラインや指針といったものがあるのか、又は計画中であるのか教えてほしい。

○事務局

ガイドライン等はない。近隣の情報を集めながら、県全体にがん教育の大切さというのを広めるのにどのような方法がよいのか考えていきたい。

○金田会長

その他、何か御発言はあるか。

（発言なし）

本日の準備された議題は以上で終了する。　　**【議事終了】**